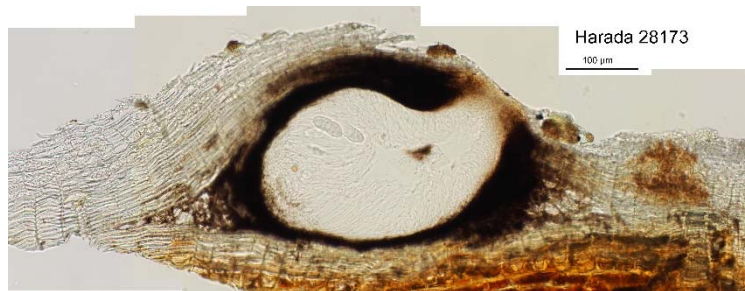
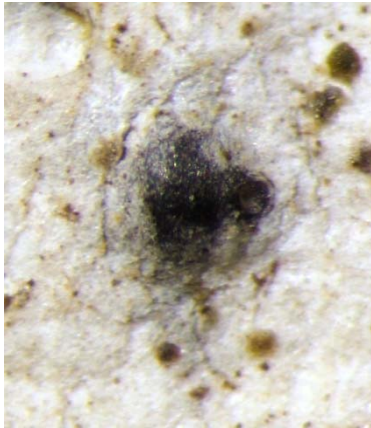


千葉県で見つかった地衣類の新種
オオゴマゴケ (*Megalotremis chibaensis*)

・・・ 原田 浩 / 2020.05.



2018年7月、日本地衣学会の学術誌ライケノロジー (*Lichenology*) に、地衣類の新種を発表しました。学名は千葉県に因んでメガロトレミス チバエンシス (*Megalotremis chibaensis* H.Harada), 和名をオオゴマゴケとしました。

発見されたのは東京大学千葉演習林で、モチノキやカクレミノなどの常緑広葉樹、また落葉広葉樹のコナラの樹幹でした。この地衣が着生している部分は白っぽく、小さい黒っぽい子器が点々としているだけで、目立ちません。子器は壺状の被子器というタイプですが、被子器だと孔口という外界に通じる孔が真ん中にあることが多いのですが、この地衣類では横のほうについています (上左の写真では、黒い子器の右側)。その断面 (右写真) を観察すると、それがよく分かります。

このように孔口が横をにつく地衣類は千葉県でも何種か知られていますが、その中では、子嚢胞子が比較的大きく (長さ約 50 μm)、2室で、透明なことで区別できます。

掲載論文： Harada H./ 2018./ Taxonomic notes on pyrenocarpous lichens in Japan (9). *Megalotremis chibaensis* sp. nov. (*Monoblastiaceae*)/ *Lichenology* 17(1): 1-4.

調査研究事業： 地域研究課題「房総の地衣類誌」・重点研究課題「房総丘陵の自然—過去、現在、未来—：植物学」